

「魂をゆるがす音楽」を伝えた 田崎悦子のマスタークラス

ピアノ・マスタークラス ジョイ・オヴ・ミュージック in 八ヶ岳

30年を超す米国滞在の後、八ヶ岳山麓の山梨県高根町に移り住んだピアノリスト、田崎悦子が「ピアノ・マスタークラス ジョイ・オヴ・ミュージック in 八ヶ岳」と題した教育プロジェクトを3月29日から30日までの7泊8日、同町内の「清里高原ハイランドホテル」を借り切って主催した。

田崎は桐朋学園大学院大学特任教授はじめ、自ら教育の現場や内外のコンクール審査に携るうち、「型だけの音楽」に危機感を抱くに至ったという。マスタークラスでは、長い外国生活でじかに触れたゼルキン、カザルス、ホルシヨフスキーらの「魂をゆるがす音楽」の素晴らしさを説き、「本物の存在する音楽社会」への問いを発し続けた。

12人の若い生徒にとっては、緻密な読譜と自己分析を基にさまざまなヒントを与える指導、あるいは豊かな自然に刺激され、人間と音楽、環境の深く感動的なかかわりに思いを新たにする一週間だったはずだ。

取材・文 池田卓夫



「魂をゆるがす音楽」の素晴らしさを説く田崎

